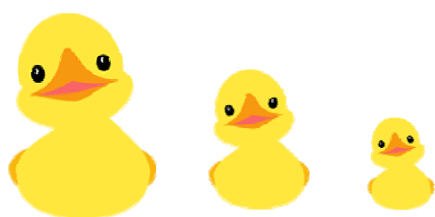


新しい幸せを、わかすこと。



おふろ白書 2011

～ お風呂とリラックス・お風呂と「絆」～



株式会社ノーリツ

はじめに

震災や不況、先行きの見えない不安感が広がり、これまで以上に家族や友人との「つながり」を改めて考えさせられた2011年ですが、年の瀬も迫ってきました。湯まわり設備メーカーの株式会社ノーリツは、2004年から毎年、現代人とお風呂の関係の実態に迫るための入浴方法・お風呂に対する意識調査を実施し、11月26日の「いい風呂の日」に合わせて、結果を「おふろ白書」として発表しています。

第8回となる今年の「おふろ白書2011」では、2005年と2008年に実施した「おふろとリラックス」のテーマに加え、本年の話題として「お風呂と『絆』」に関して最新の状況を調査しました。その結果、家族とお風呂に入ることが増えたとの回答は、20代、30代の若い世代ほど多く、お風呂での会話も子どもが未就学児の場合、増えている傾向が明らかになりました。また、自宅のお風呂で楽しむ方と温泉など外湯を利用する方に今年のはっきりと分かれ、二極化の状況が浮かび上がってきました。次ページ以降に2章に分けて調査結果をご紹介します。本年も、「おふろ白書」が健康とお風呂文化の実現の一助となれば幸いと考えております。

<これまでの「おふろ白書」のあゆみ>

- 第1回の「おふろ白書2004」では、「おふろとコミュニケーション」について詳しく調査しました。結果からは、おふろは「コミュニケーションを弾ませる手段として有効である」ことが浮かび上がってきました。
 - 第2回の「おふろ白書2005」では、「おふろとリラックス」について特に詳しく調査したところ、多くの人がおふろを「リラックスできる場所」として捉え、様々な方法で工夫して入浴を楽しんでいることがわかりました。
 - 第3回の「おふろ白書2006」では、「メタボリックシンドローム」や「デトックス」など、健康に関する様々なキーワードが話題になった年であったことを受け、「おふろと健康」に焦点を当てて調査を実施しました。
 - 第4回の「おふろ白書2007」では、2004年に実施した「おふろとコミュニケーション」を再びメインテーマとして定め、お風呂を通じた現代日本の家族間のコミュニケーションについて調べました。
 - 第5回の「おふろ白書2008」では、2005年に実施した「おふろとリラックス」を再びメインテーマに意識調査を実施し、変わらずお風呂は多くの方にとってリラックスできる場という結果となりました。
 - 第6回の「おふろ白書2009」では、2006年の「おふろと健康」を再びテーマとし調査を実施、不況下、皆お疲れ気味で、家庭のお風呂が身近な健康法として重宝されていることなどが浮かび上がりました。
 - 第7回となる「おふろ白書2010」では、2004年と2007年に実施した「おふろとコミュニケーション」について調査した結果、父親が「平日」も子どもをお風呂に入れる率が高まっている様子が見えてきました。
- ※11月26日「いい風呂の日」は、日本浴用剤工業会が日本記念協会に正式に登録、認定を得た記念日です。

当資料に関するお問い合わせ先：
株ノーリツ広報・IR室 担当：寺島 電話：078-334-2801
ノーリツ 浴育・食育サイト
http://www.noritz.co.jp/csr/social/yoku_shokuiku/

目次

P4. 第1章 お風呂とリラックス

1. お風呂とリラックス
2. リラックスの効果
3. 内湯と外湯
4. 理想のお風呂
5. お風呂と安全

P12. 第2章 お風呂と「絆」

1. 本年の家族と入浴についての意識
2. 家族と出かける外湯について

調査概要

●調査目的

お風呂とリラックス、お風呂がたなぐ人との絆の関係を明らかにするために実施した。

●調査方法

Webアンケート

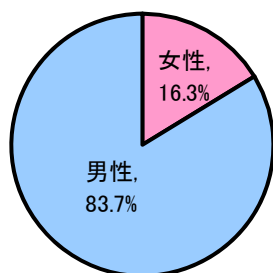
●調査対象

ノーリツインターネットサイト「CLUB NORITZ(クラブノーリツ)」会員

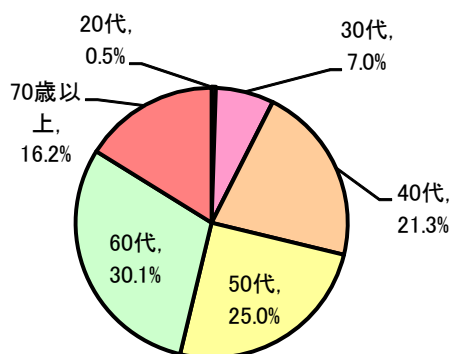
全国の全世代男女 2857人

●回答者の構成

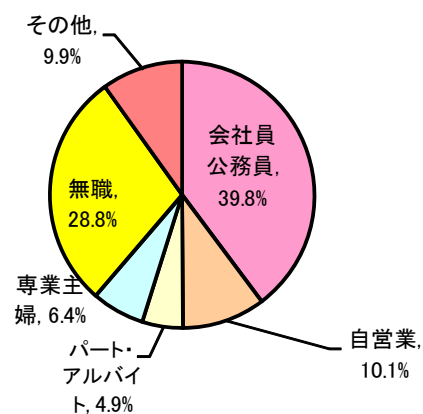
■性別 (n=2857)



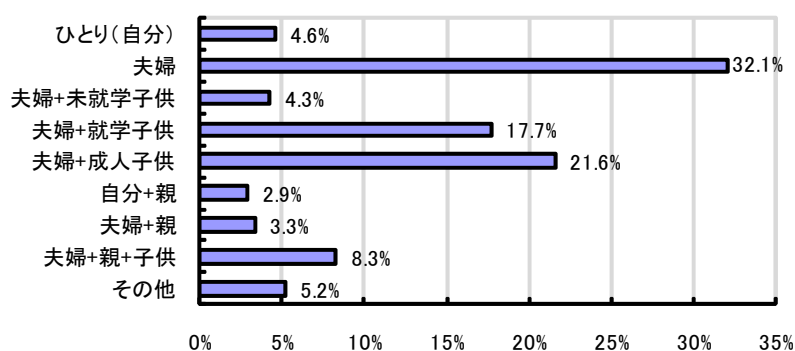
■年代 (n=2857)



■職業 (n=2857)



■家族構成 (n=2857)



●調査エリア

全国

●調査実施

2011年9月27日～30日

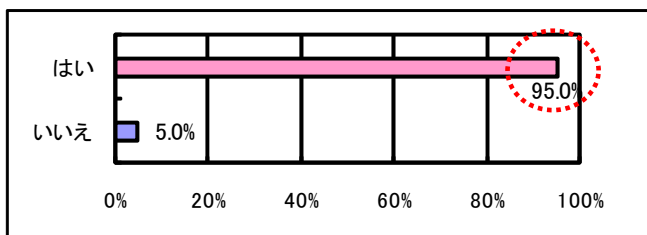
第1章 お風呂とリラックス

1. お風呂とリラックス

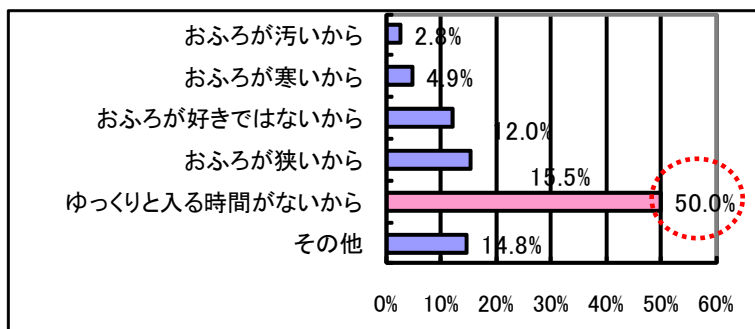
寒い季節は特に恋しい「お風呂」。本章では、お風呂とリラックスの関係という切り口で調査した結果をまとめました。

- お風呂がリラックスできる場所かどうか尋ねたところ、9割以上の方が「はい」と回答しています。
- 「時間が無い」、「お風呂が狭いから」の理由で5%は「リラックスできない」と回答。リラックスしたくてもその時間が十分にとれなかったり、理想の広さでなく満足できない、という現実があるようです。
- お風呂でリラックスするために実践していることに対しては、「入浴剤を使う」と「ゆるめのお湯にゆっくりつかる」が高い割合でした。これは、2008年と変わらぬ傾向です。男女別でみると、「マッサージ」をするのは男性よりも女性が多く、その差は10ポイント以上の結果でした。ちなみに入浴剤は「香り」を重視する方が約5割で、「効能」重視を上回りました。

■あなたにとって、お風呂はリラックスできる場所ですか。(n=2857)

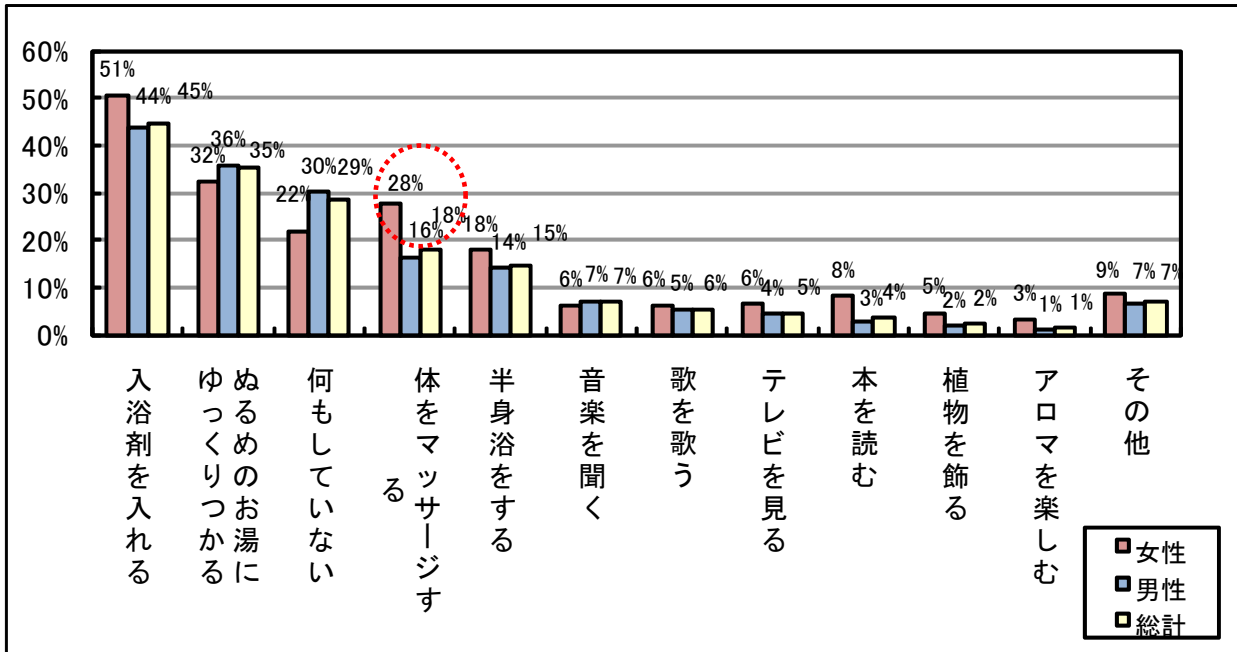


■リラックスできないのはなぜですか。(n=142:前問で「いいえ」との回答者)

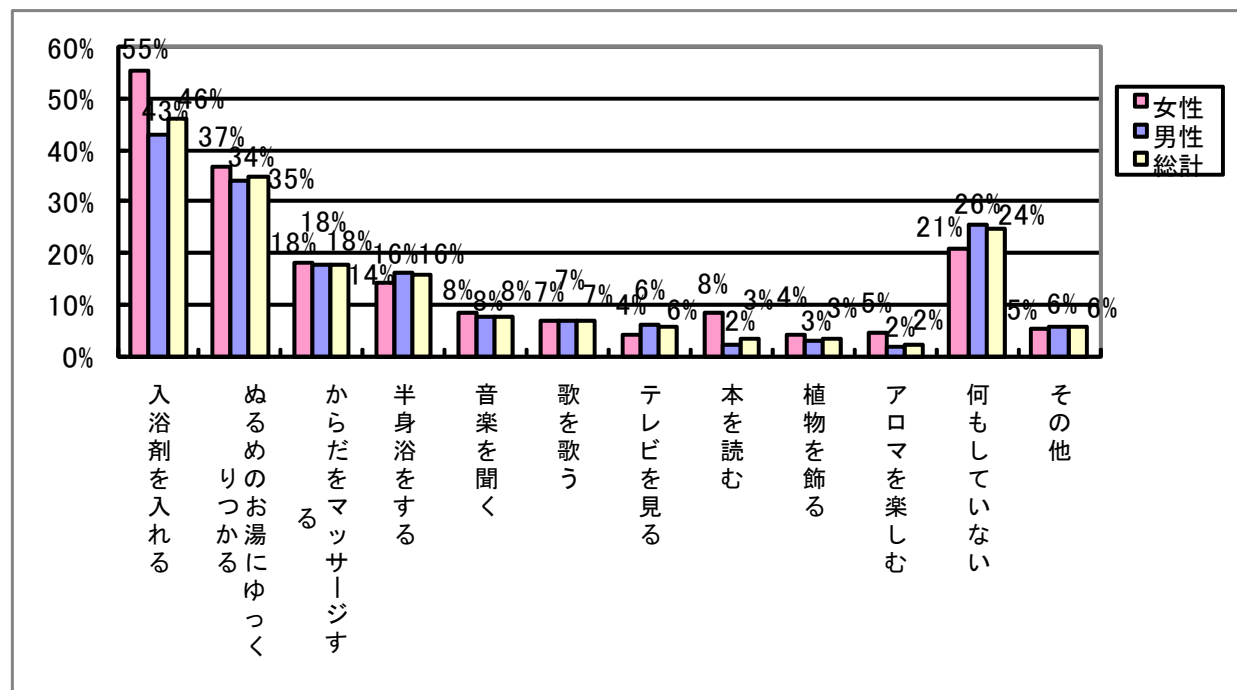


第1章 お風呂とリラックス

■リラックスするためにお風呂で実践していることはなんですか。(n=2857)

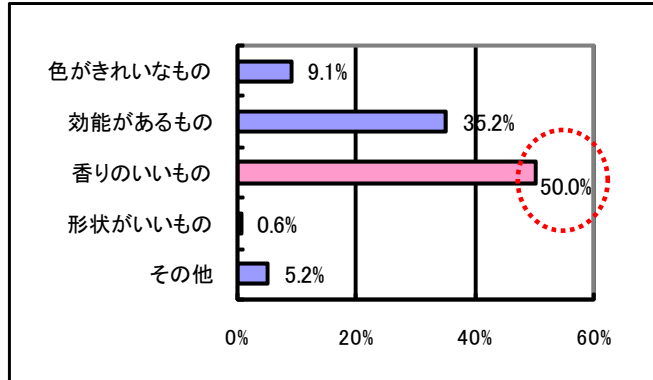


2008年調査 (n=833)



第1章 お風呂とリラックス

■入浴剤はどのような特徴のものを選んでいきますか。(n=2857)



お風呂のはてな Q&A

みんな大好き! ポカポカお風呂のいまむかし

お風呂のはてな 1

Q てら お寺のお風呂って どんなお風呂?

ジャ〜ン

A じょうき 蒸気により カラダを蒸らす「蒸し風呂」にはい入っていました。

フーツ、汗がよくてるわい。

ひと おうちにお風呂がない人は、つか みず あ ぎょうずい タライを使って水を浴びる行水でカラダを洗っていたんだよ。

出典:ノーツ浴育BOOK

第1章 お風呂とリラックス

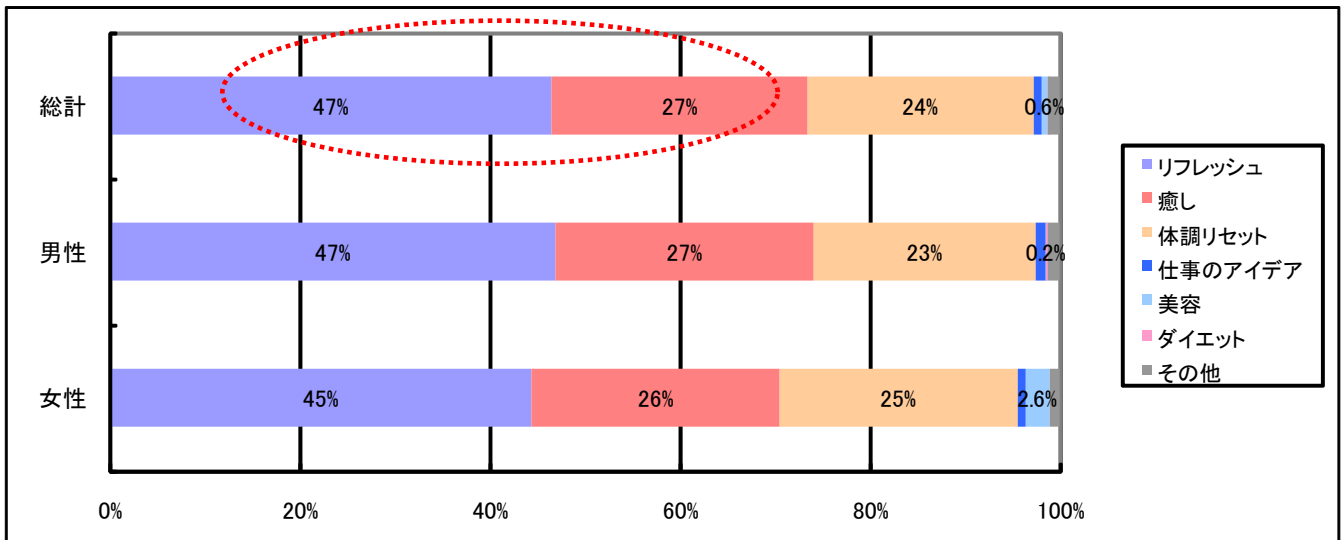
2. リラックスの効果

お風呂の時間を思い思いにリラックスタイムとして過ごしている方が多いことが分かりましたが、ここでは、リラックスすることで何を得ているのかを調査しました。

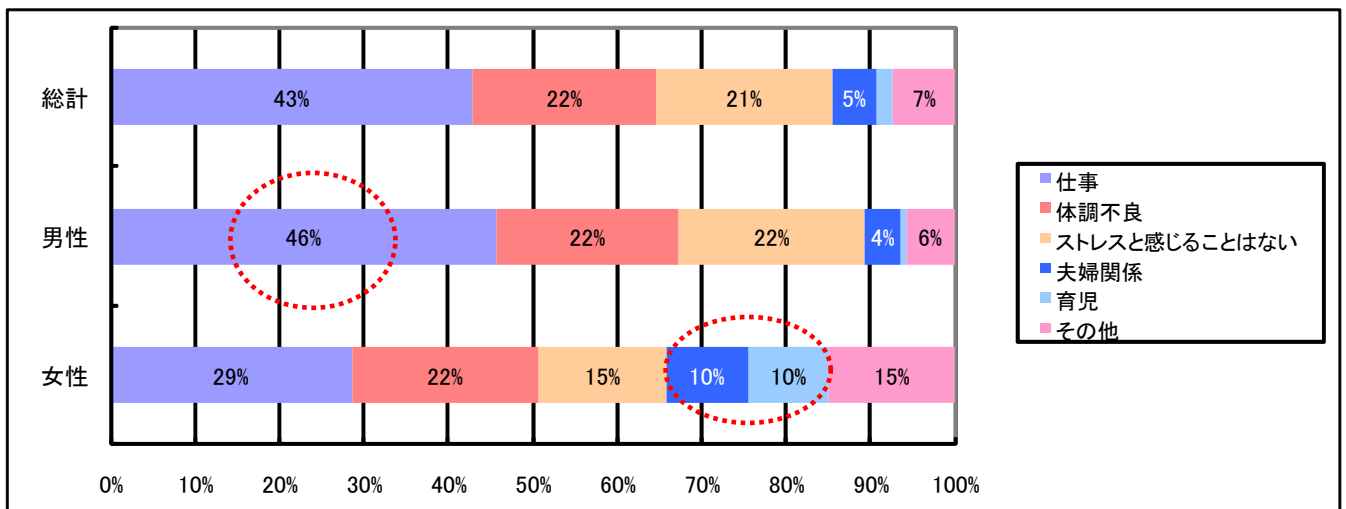
●男性、女性ともに「リフレッシュ」「癒し」という回答が7割を超える一方、「仕事のアイデア」は1割未満で、頭を働かせることは休止し、「動」から「静」への切り替えの時間となっている様子がうかがえます。

●「リフレッシュ」や「癒し」の時間をもちたいという原因である、普段最も感じているストレスに関して、男性は「仕事関係」が約5割を占めました。女性は、「仕事関係」「体調不良」の上位2つは男性と同じですが、「夫婦関係」と「育児関係」がともに10%あり、家庭の悩みも垣間見られる結果となりました。

■お風呂でリラックスすることでもっとも得られることはなんですか。(n=2857)



■普段、もっともストレスと感ずることはなんですか。(n=2857)



第1章 お風呂とリラックス

3. 内湯と外湯

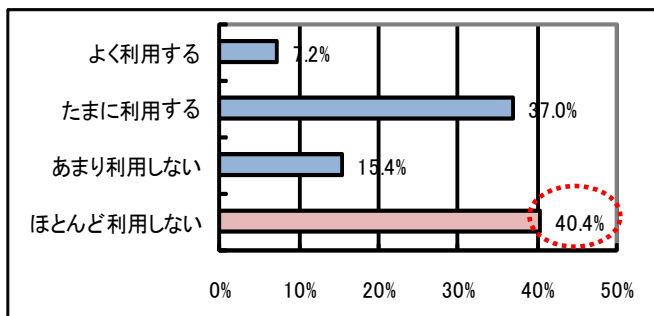
お風呂は、家庭だけではなく温泉施設や銭湯にもあります。

●今年の外部入浴施設の利用率は、「ほとんど利用しない」が約4割にもものぼりました。2008年と比較すると、20ポイント以上の差があることから、今年は自宅のお風呂で寛いでいた人が多い傾向がわかります。ただ、利用率は「よく利用する」「たまに利用する」をあわせると4割を超えることから、二極化の状況であるようです。

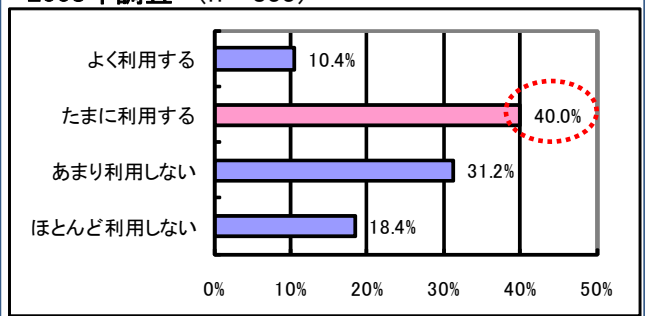
●入浴施設としては男性も女性も「温泉」がトップ。女性は、「スパ」の利用が約20%という結果が出ました。

●外湯に行く理由は、「気分転換」が約8割の支持で、内湯と外湯を気分によって使い分けて、自分なりのお風呂でのリラックス方法があることがわかりました。

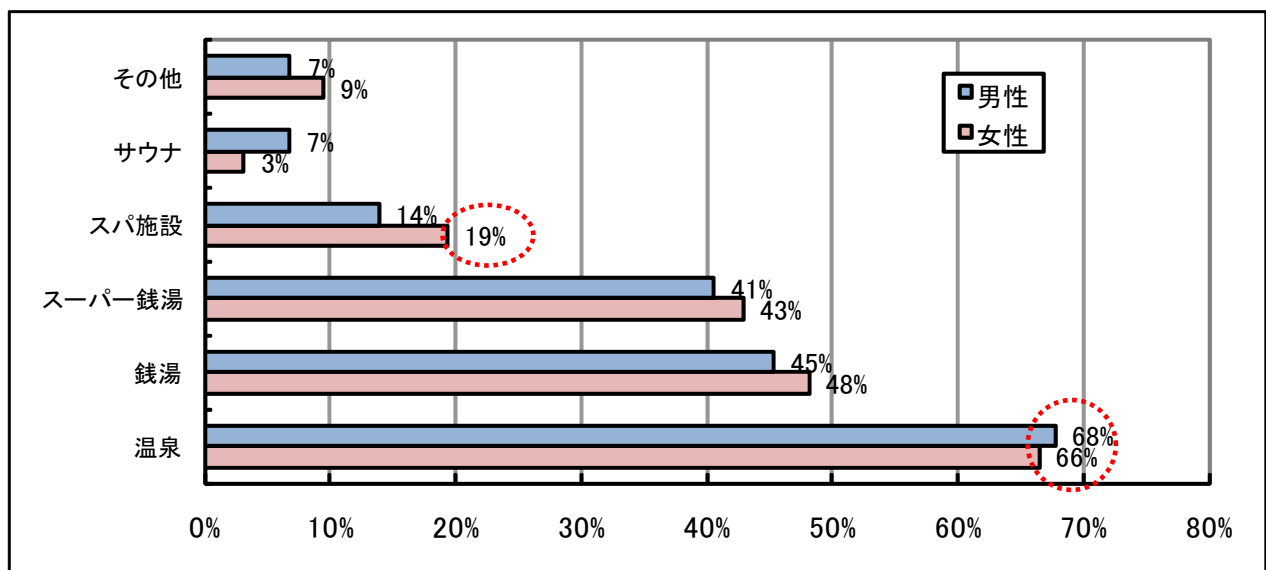
■外部入浴施設(家のお風呂以外)を利用することはありますか。(n=2857)



2008年調査 (n=833)

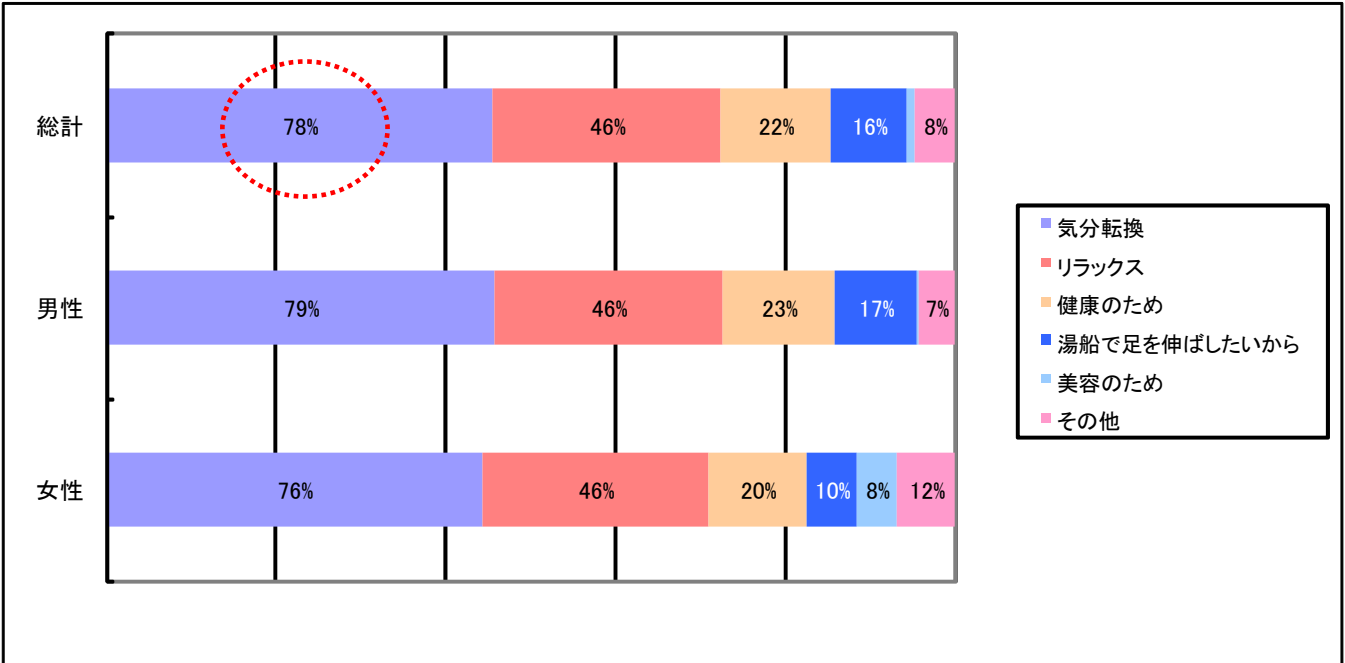


■どのような外湯を利用しますか。(n=1262: 外部入浴施設を利用する方)



第1章 お風呂とリラックス

■利用すると回答した施設に行く理由は。 ※複数回答 (n=1262: 外部入浴施設を利用する方)



お風呂のはてな Q&A

みんな大好き! ポカポカお風呂のいまむかし

お風呂のはてな 2

Q

うちぶる
内風呂ができると
せんとう
銭湯はどうなったの?

ジャーン

A

せんとう
銭湯はコミュニケーションの
ば
場としてにぎわっていました。

あら奥さん、
お久しぶり〜

ゆ
湯につかったあとは、2階の座敷で
かい ざしき
おかしを食べながらおしゃべりしたり、
た
囲碁や将棋をみんなで楽しむのが
いこ しょうぎ たの
エド
江戸スタイル!

出典: ノーリツ浴育BOOK

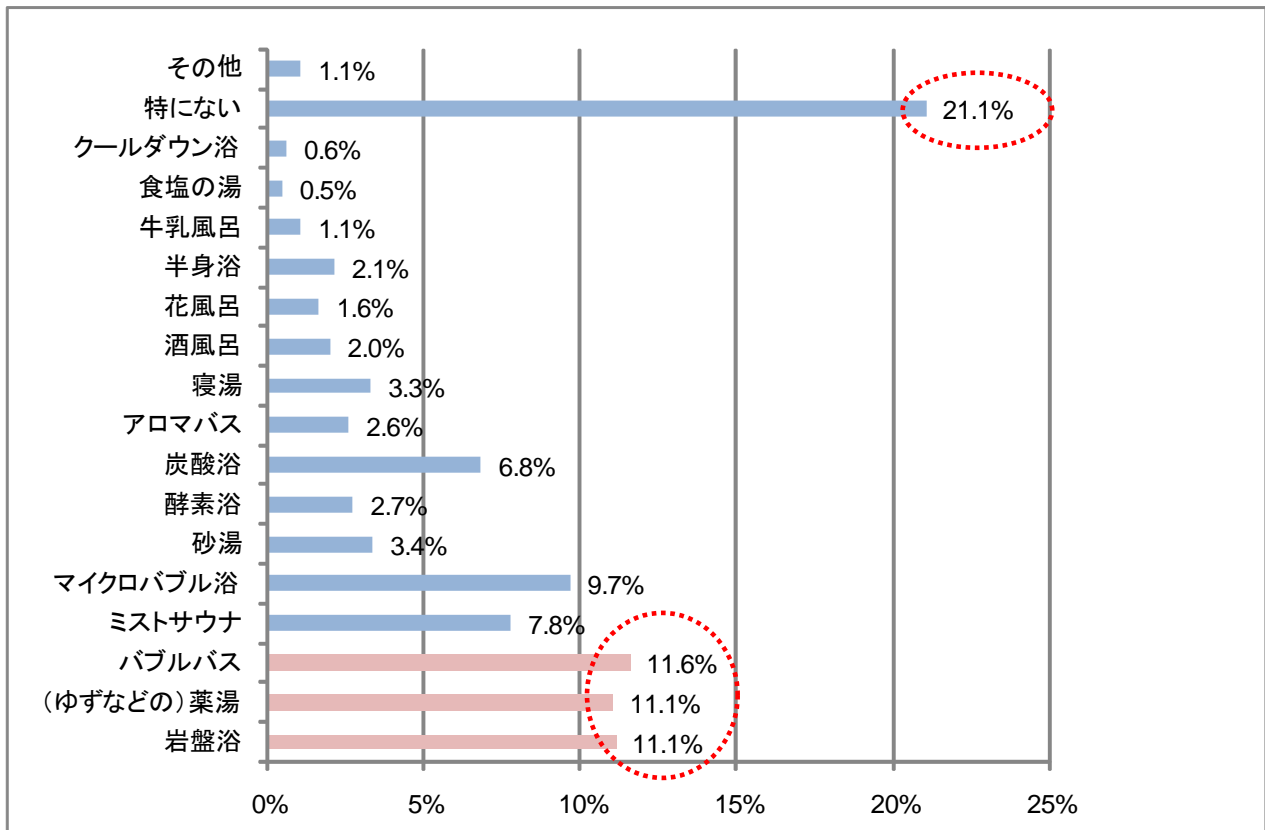
第1章 お風呂とリラックス

4. 理想のお風呂

お風呂をもっとリラックスできる場にするには、どうしたらいいのか。今後試してみたいと思う入浴法を調査しました。さらに、高額であっても「実用的」であれば消費が伸びる時代。自宅のお風呂に「こんなお風呂があれば」という理想を探りました。

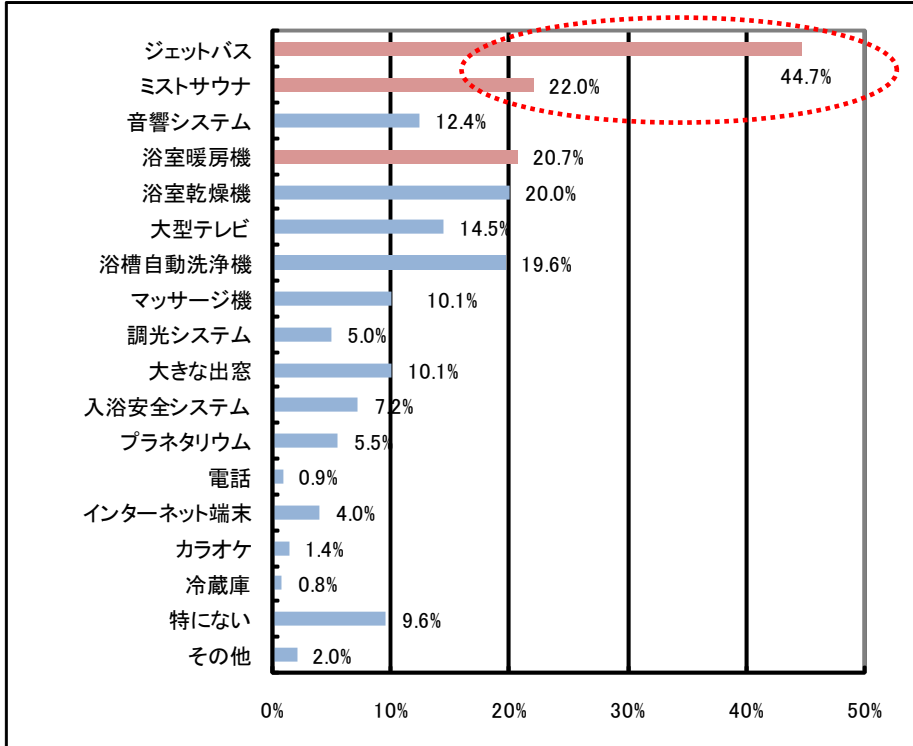
- 「バブルバス」、「岩盤浴」、ゆずなどの「薬湯」が三大人気で、以下「マイクロバブル浴」が続きました。一方、「特にない」も20%以上あり、入浴スタイルが確立している人がいることも予想できます。
- お風呂にあるといい機能としては、「ジェットバス」約5割と「ミストサウナ」約2割。2008年に比べるとその割合が下がっていることから、すでに完備しているお風呂が増えたのかもしれない。
- 子育て世代にお風呂にあるといい機能を尋ねたところ、「子どもが浴室内に座れる仕掛け」とともに「壁が黒板にできる」ことが挙げられました。子育て中の場合、お風呂は学習の場であることも期待されているようです。

■あなたがもっとも試してみたいと思う入浴法は。(n=2857)

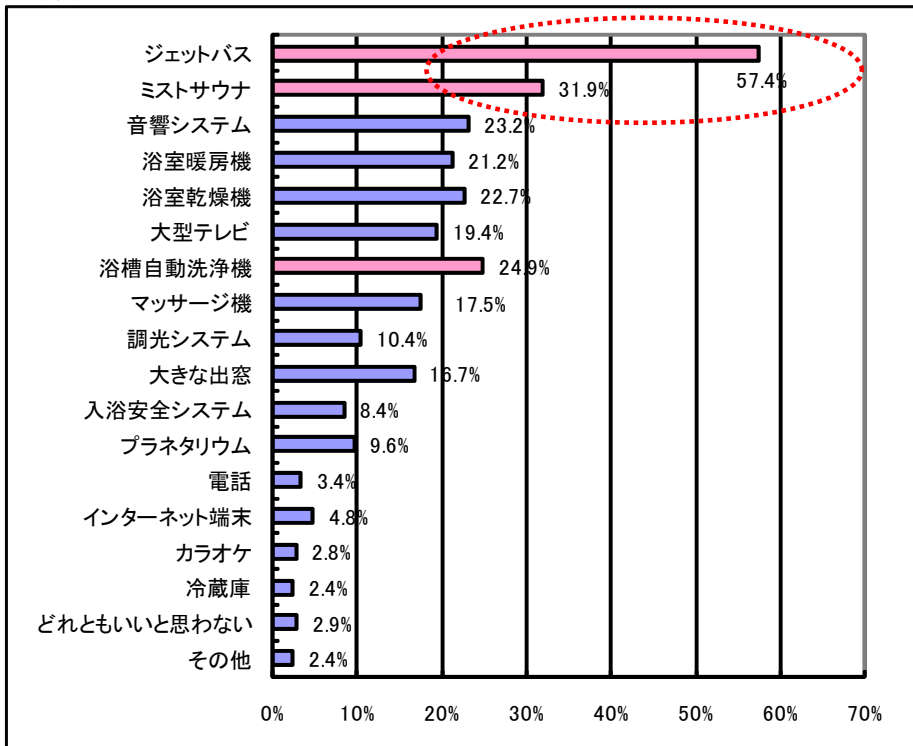


第1章 お風呂とリラックス

■お風呂にあればいいと思う機能は。 ※複数回答 (n=2857)

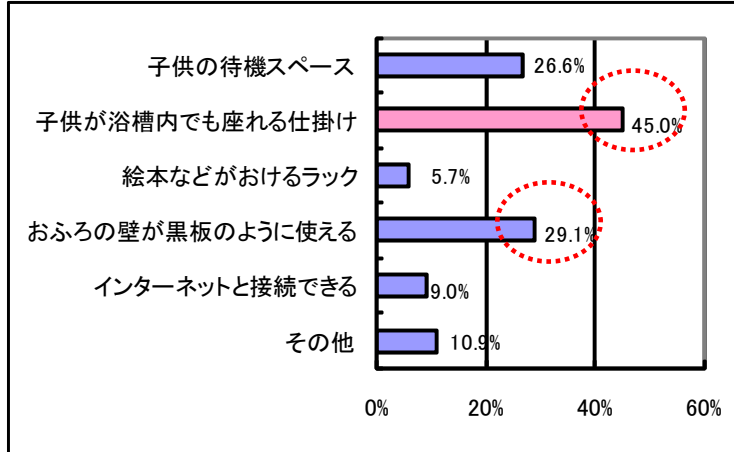


2008年調査 ※複数回答 (n=833)



第1章 お風呂とリラックス

■育児する上で、お風呂にあればいいと思う機能は。 ※複数回答 (n=1017:お子様がいる方)



お風呂のはてな Q&A

みんな大好き! ポカポカお風呂のいまむかし

お風呂のはてな 3

Q シャワーをあびれば
お湯につからなくても
大丈夫?

じゃーん

A カラダをポカポカ温めるには
お湯につかることが大切です。

あたら
温まるなあー!

あら
カラダを洗うだけならシャワーでも十分。
でもお湯につかれば、
カラダの芯からポカポカあったか。
ゆっくりつかればリラックス効果もあるよ!

出典: ノーリツ浴育BOOK

第1章 お風呂とリラックス

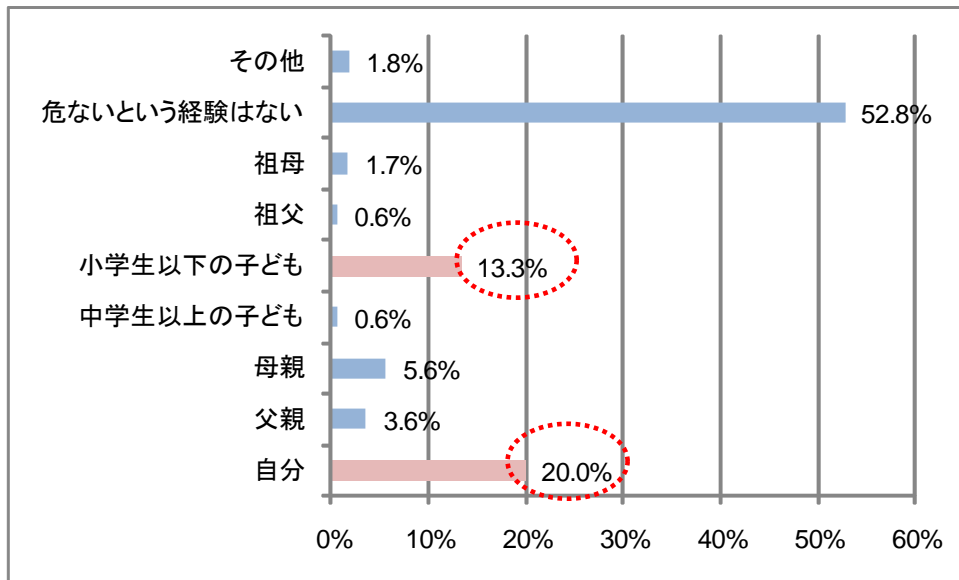
5. お風呂と安全

リラックスの場であるお風呂は、安全性が守られてこそ成り立つものです。自分、または家族がお風呂で危ないという経験をしたことがあるかどうか尋ねました。

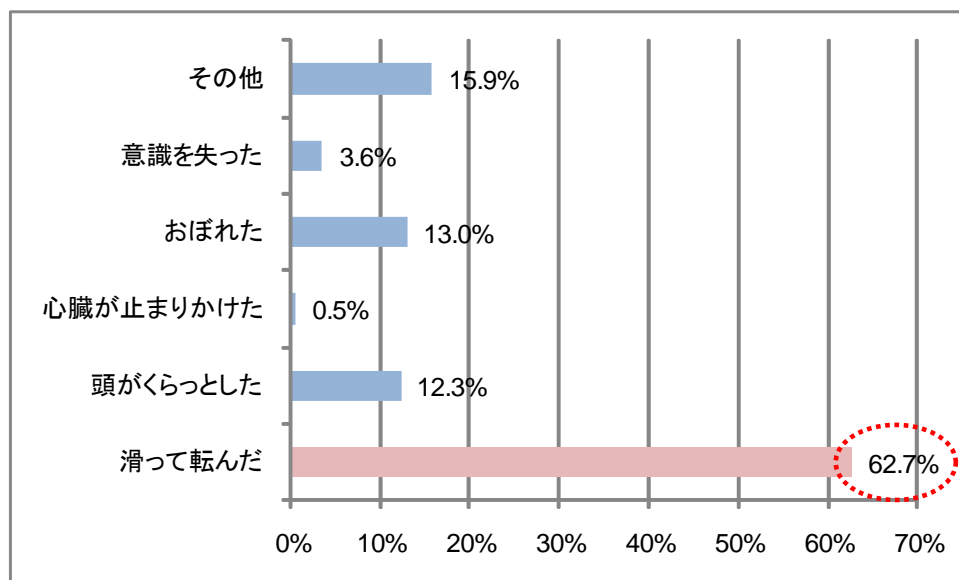
●約5割は、危ない経験はなかったとの回答でしたが、自分、小学生以下の子どもが「滑って転んだ」というケースも発生していることが分かりました。

■あなた、またはご家族がお風呂で危ない経験をしたことがありますか。
また、それはどなたですか。

(n=2857)



■それはどのようなことですか。 ※複数回答 (n=1349)



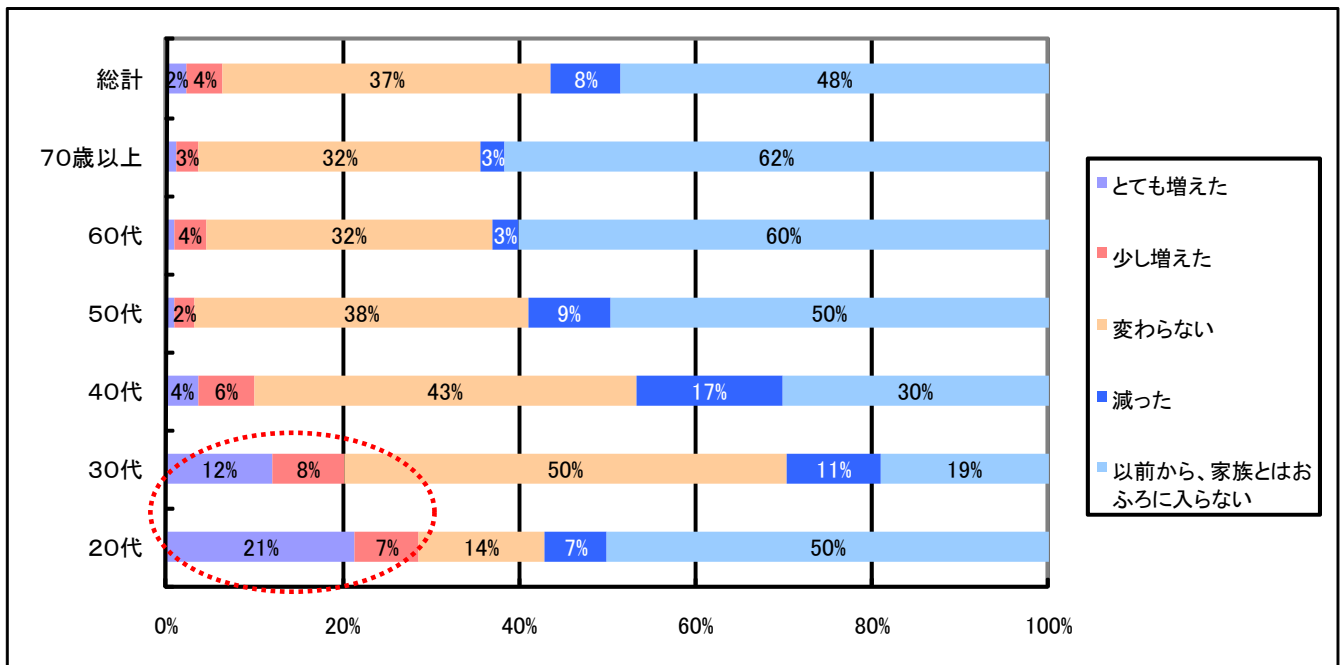
第2章 お風呂と「絆」

1. 本年の家族と入浴についての意識

震災や不況の影響で、人とのつながりや絆にスポットがあたることが多かった2011年。この状況下で入浴はどのような役割を果たしていたのかを調査しました。

●2010年と比較して、家族とお風呂に入ることが「増えた」との回答は、20代、30代の若い世代ほど多い傾向で、それぞれ29%、20%という結果になりました。

■昨年と比べ、家族とお風呂に入ることが増えましたか。(n=2857)

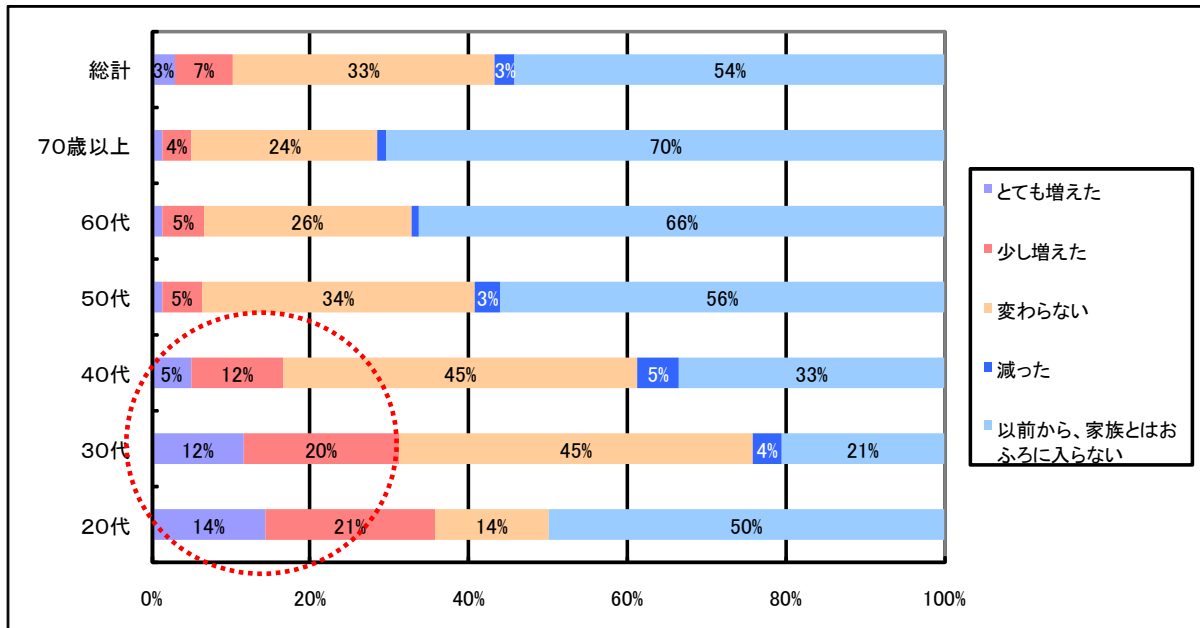


第2章 お風呂と「絆」

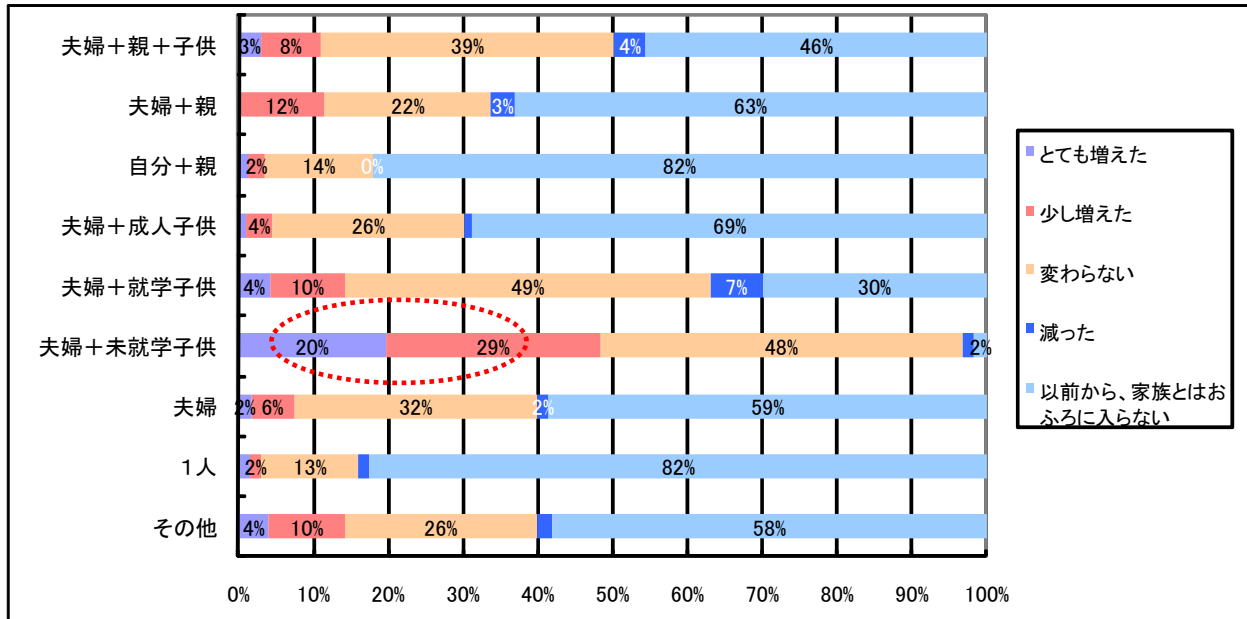
1. 本年の家族と入浴についての意識

● 家族でお風呂に入る場合、会話が「増えた」と20代、30代、40代の子育て世代が特に感じている様子。子どもが未就学児であると、その割合が約50%と半数に達し、お風呂で親子のコミュニケーションを図っていることがわかりました。

■ 家族とお風呂に入る場合、以前より会話が増えましたか。(n=2857)



■ 家族とお風呂に入る場合、以前より会話が増えましたか。／家族構成別 (n=2857)

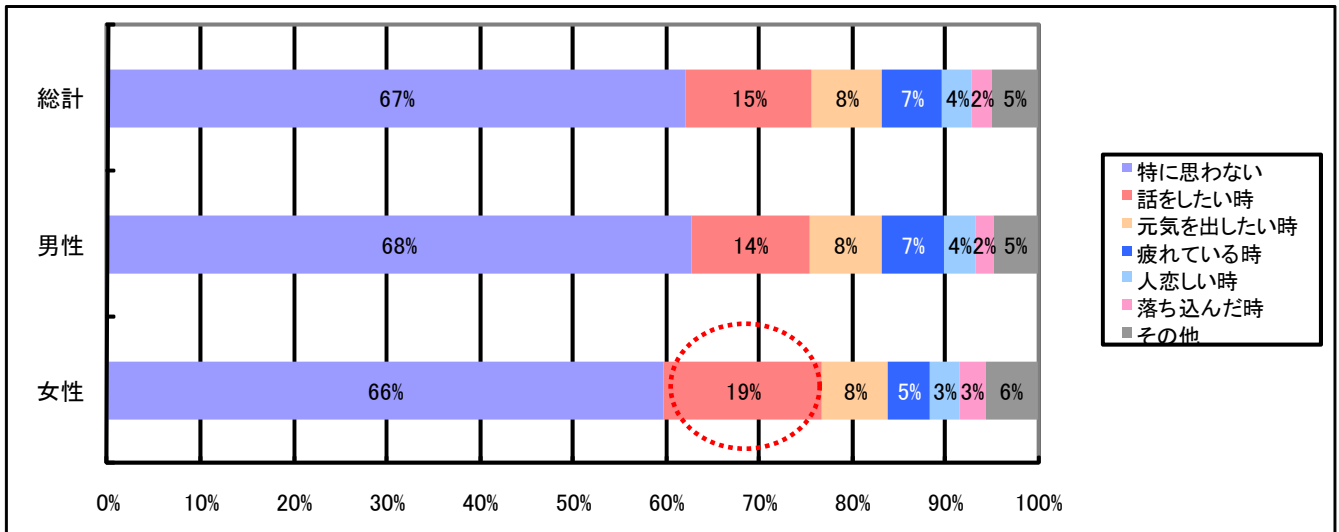


第2章 お風呂と「絆」

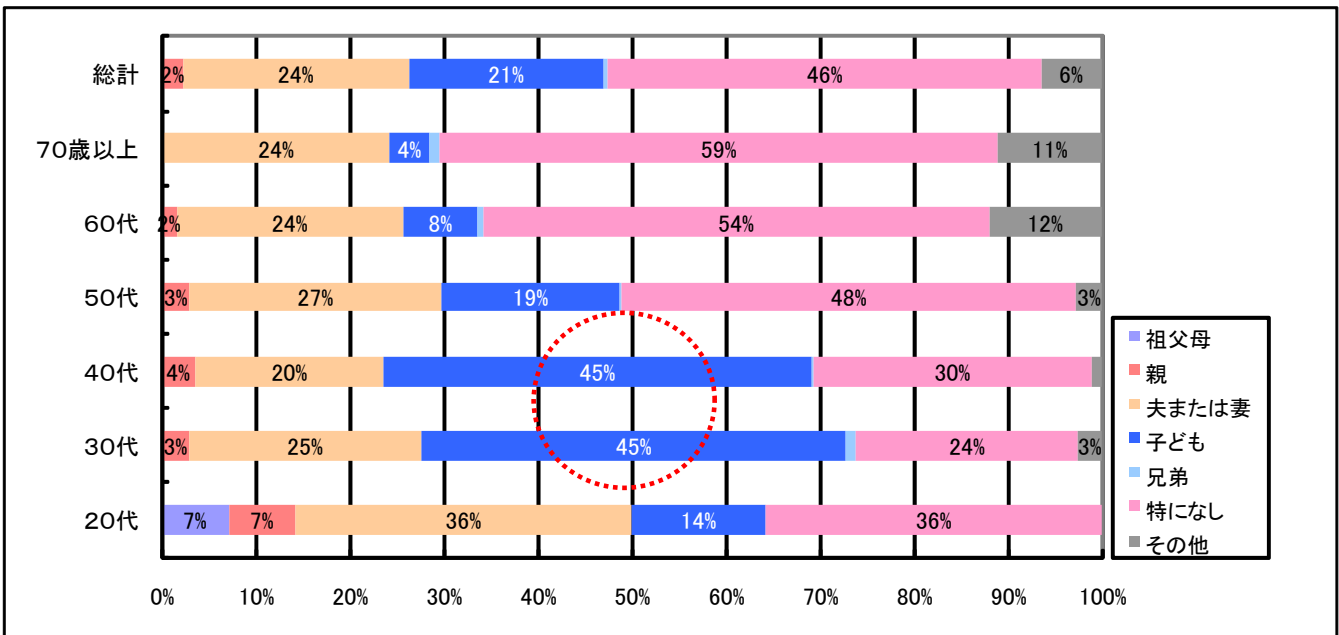
1. 本年の家族と入浴についての意識

●家族でお風呂に入りたいと思うのは、「話」をしたい時で、女性にその傾向が強い。ただし、1人で寛ぎたいのが本音で、その割合は約7割。世代別でみると子育て世代である30代、40代は、子どもとお風呂に入りたい割合が45%にのぼります。

■家族とお風呂に入りたいと思うのはどのような時ですか。(n=2857)



■家族の誰とお風呂に入りたいですか。(n=2857)

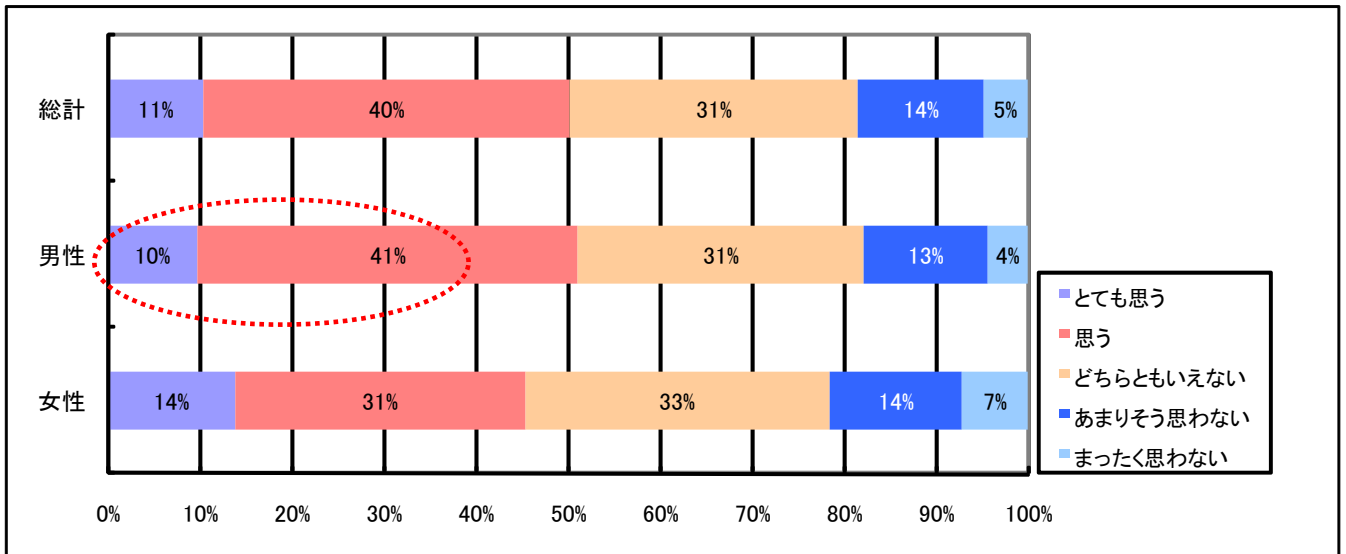


第2章 お風呂と「絆」

1. 本年の家族と入浴についての意識

●半数以上が、「入浴により家族の絆が深まる」と回答。特に男性は51%と5割を占め、女性の47%よりも6ポイント高いことがわかりました。男性の育児として入浴は取組みやすい事例であることから、コミュニケーションの場として入浴を大切に思うイクメンの定着化とも推測できます。

■入浴により、家族の絆が深まると感じますか。(n=2857)



第2章 お風呂と絆

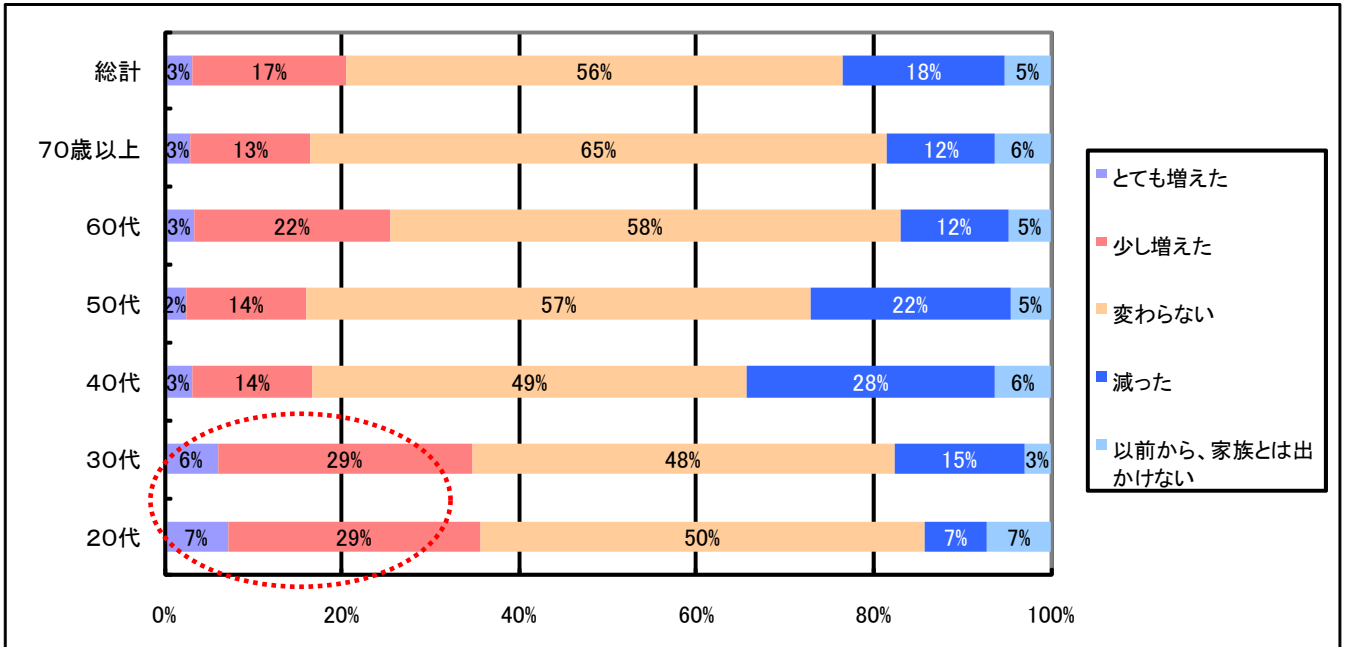
2. 家族と出かける外湯について

第1章で、外湯の利用は、「する派」と「しない派」に分かれている実態が明らかになりましたが、外出の機会や温泉等に行きたいかどうか、心情的な部分も調査しました。

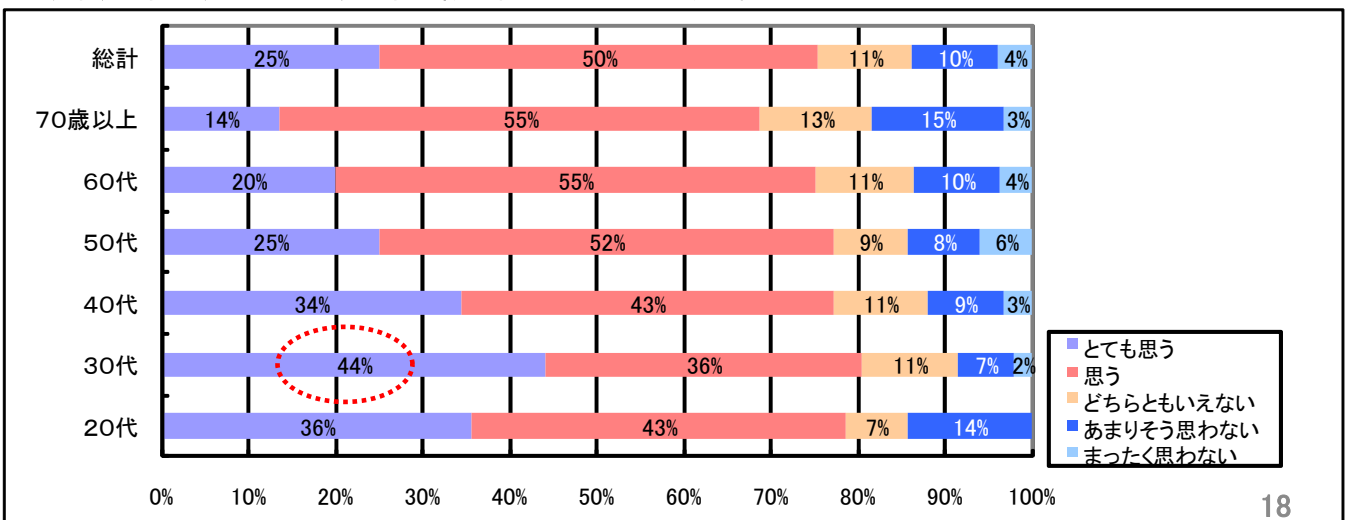
● 出かける機会は、昨年と「変わらない」が最多の56%。ただし年代別でみると、20代、30代は「増えた」との回答が30%を超えます。

● 75%が「温泉等に行きたい」と回答。特に、30代女性は「とても思う」が44%と他の世代に比べて最も高く、仕事や家事で忙しい反面、家族や友人とつなげる時間を大事にする傾向が窺えます。

■ 昨年と比べ、家族で出かける機会は増えましたか。(n=2857)



■ 今年、家族や友人と温泉、温浴施設に行きたいと思いませんか。(n=2857)



新しい幸せを、わかすこと。

